

会報

第115号

平成29年7月24日

新潟県特別支援教育研究会事務局

新潟市中央区白山浦1-207-3

新潟市立鏡淵小学校内

Tel 025 (265) 4111

Fax 025 (265) 4112

発行：文久堂

特別支援教育の充実に向けて



新潟県特別支援教育研究会
会長 渡辺 徹

昨年度は、「一人一人が輝き、共に新しい時代を生き抜く特別支援教育の展開」をテーマに、第50回全日本特別支援教育研究連盟関東甲信越地区特別支援教育研究協議会新潟大会が開催されました。ご参加いただいた皆様、役員として大会を支えてくださった皆様、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

今年度は、通常の年の運営に戻り、県特支研の中心事業である研修を中心に、特別支援教育の充実に向けて地道な活動を進めていこうと考えております。

今、世の中では2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、さまざまなキャンペーンが展開されています。障害者スポーツの面でも様々なPR映像が流され、障害をもった人への理解が進みつつあるように思います。障害のある人もない人も共に生きるという理念に向かつて、着実に社会が動いていると感じています。

ところで、平成24年度に、文部科学省から「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育シス

テム構築のための特別支援教育の推進(報告)」が、出されました。それから5年が経ちました。共生社会に向けた取組は進んでいますでしょうか。また、このことに関連して、昨年4月に「障害者差別解消法」が施行されました。この法律では、正当な理由なく障害を理由として差別することを禁止しているほか、基礎的環境整備や合理的配慮を提供することが求められています。皆さんの学校では、基礎的環境整備や合理的配慮はどの程度進んでいるでしょうか。

卑近な例で恐縮ですが、当校の取組からいくつか紹介してみたいと思います。当校では、基礎的環境整備の一つとして多層指導モデルMIMの取組をしています。これは、低学年における読みの困難さの早期発見と早期指導をねらい、アセスメントと指導を繰り返すものですが、家庭とも連携し効果を上げています。また、UDLの視点を取り入れた授業として、どの学年でも課題(赤囲み)とまとめ(青囲み)を明示し、視覚化、焦点化、共有化を意識した授業を行っています。

合理的配慮については、特定の障害をもった子どもに対して、iPadやVOCA-PENなどのICT機器を活用した授業やテストを行うなどの支援をしているほか、障害の程度に応じて「あいうえお表」や「九九表」などの活用、総ルビテスト、宿題の調整、取り出し指導などを行っています。こういった支援によって「分かる」「できる」という子どもが増え、子どもたちも笑顔が増えていきます。

こういった支援ができるのも、個別の配慮を当たり前と見る特別支援教育があってこそだと思います。各校におかれましても、子どもたちの笑顔のため、さらなる特別支援教育の充実をお願いいたします。

平成29年度 主な行事予定

- 5月
 - 特別支援 学級・通級指導教室担当者名簿発刊
 - 県特支研 三役会(31日)
 - 県特支研 第一回理事・評議員会(31日)
- 6月
 - 各研究部 研修予定集約
- 7月
 - 会報115号 発刊
 - 言語・難聴部研修会(31日)
- 8月
 - 肢体不自由・病弱・身体虚弱部 研修会(4日)
 - 自閉症・情緒障害部研修会(4日)
 - 知的障害部研修会(7日)
 - 全特連関フロ大会東京大会(9日)
 - 上越地区 特別支援教育研究大会
 - 佐渡地区 上越市北部大会(10日)
 - 特別支援教育研究大会(21日)
- 10月
 - 全特連全 国大会山口大会(26・27日)
- 11月
 - 中越地区 特別支援教育研究大会
 - 下越地区 十日町中魚沼大会(24日)
 - 特別支援教育研究大会
 - 阿賀野市大会(27日)
- 2月
 - 県特支研 第二回理事会(上旬)
 - 会報116号 発行

新潟県の特別支援教育の動向



県教育庁義務教育課
特別支援教育推進室

室長 大竹 嘉則

一 はじめに

会員の皆様には、本県の特別支援教育の推進にご尽力されていますことに敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。

さて、国の動向をみてみますと、東京パラリンピック競技大会の開催に向け、共生社会の実現への取組を推進するため、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」が策定されました。

また、文部科学省は、障害のある方の生涯を通じた学びを支援する観点から、事業の総点検と見直しに取り組み、生涯を通じて学習やスポーツ、文化活動に親しめるよう施策を進めていくとしています。

新潟県教育委員会におきましては、平成二十六年度に策定した「新潟県教育振興基本計画」に基づき、国の施策とともに、特別支援教育の推進に取り組んでいます。

今回、執筆の機会をいただきましたので、県の取組状況を述べさせていただきます。

二 教育環境の整備について

本年度、県立新発田竹俣特別支援学校が、分校から本校化したしました。今後、地域におけ

る更なる特別支援教育のセンター的役割が期待されるところです。

また、特別支援学級及び通級指導教室で学ぶ児童生徒数が近年増加しています。特別な教育的ニーズに応じた専門的な指導・支援が実施されている成果と考えます。

通級指導教室におきましては、地域の状況に応じた運営が求められていることから、県教育委員会では今後、運営の手引きを作成し、参考にしていただきたいと思います。

三 支援体制の整備について

平成二十七年年度から、モデル校による実践を通して、小・中学校の通常の学級において特別な教育的支援のニーズがある児童生徒に対する支援体制づくりに係る研究を行っております。

平成二十八年度末には、その成果等を「通常の学級における特別な教育的支援事例集」としてまとめ、市町村教育委員会を通じて各学校に配信したところです。今年度は、新たにモデル校とした各学校の実践等から、全校体制を視点とした支援事例集を作成し、発行を予定しています。

四 職業教育の推進について

特別支援学校はこれまで、進路実現に向けた作業学習の実施や福祉、企業等と連携した職場開拓、そして就労継続をサポートする体制の構築を進めてきました。今後、更なる進路実現が求められると考えています。本年四月には、文部科学省と厚生労働省から「就労系障害福祉サービスにおける教育と福祉の連携の一層の推進」が示され、実効性のある「就労アセスメン

ト」の実施に向けた具体的な取組が解説されています。

本県では、有識者や関係機関で構成する「就労支援検討委員会」を開催し、進路希望を実現するための課題と解決の方途について、協議を行っているところです。今後、更なる進路実現を推進するに当たっては、職業教育に係る教育課程の点検と、企業、福祉等との連携を密にした、「個別の教育支援計画」の作成・活用が望ましいとされ、まさに、国の今後の施策と一致した方向となっております。

五 交流及び共同学習について

「ユニバーサルデザイン2020行動計画」に、障害のある人とともにある「心のバリアフリー」授業の全面展開という取組が掲げられています。このためには、交流及び共同学習の更なる推進による成果を踏まえるとしています。

県教育委員会では、特別支援学校校長会と連携し、「交流及び共同学習の実践ガイドブック」を各校に配信しています。学校や地域の状況に応じた交流及び共同学習の推進をお願いいたします。

六 おわりに

国立特別支援教育総合研究所では、インクルーシブ教育システム推進センターを設置し、地域と実践研究等に取り組んでいます。

これからインクルーシブ教育システムの構築に向け、地域の取組を進めることが求められています。今後、貴会が一層充実するとともに、県の特別支援教育がますます発展していきましよう、よろしくお願いいたします。

平成29年度 県特支研 役員

※敬称略

会 長	渡辺 徹 (鏡淵小)		
副 会 長	新崎 俊博 (南本町小)	小林 徹哉 (裏館小)	中川 一之 (新潟市立東特別支援)
理 事	①松永 哲郎 (新井中央小)	②加藤 佐知子 (大洲小)	③中田 仁司 (千手小)
	④堀江 哲 (今町小)	⑤鷹巢 大城 (北辰小)	⑥渡辺 義光 (新津第五中)
	⑦長谷川 豊 (新津第一小)	⑧渡邊 辰弘 (万代長嶺小)	⑨新井 秀和 (女池小)
	⑩村川 孝子 (外ヶ輪小)	⑪小山 和浩 (神納小)	⑫有本 秀雄 (五泉小)
	⑬池 典比古 (真野中)	⑭猪俣 保行 (県立はまなす特別支援)	
	⑮小玉 義明 (見附市立見附特別支援)	⑯猪股 昭博 (新潟市立西特別支援)	
会計監査	渡辺 寿敏 (糸魚川小)	桜井 真理 (新町小)	伊藤 守 (水原小)

平成29年度 県特支研 評議員

※敬称略

上 越	栗岡 秀明 (飯小) 梅山 猛生 (浦川原中)	柏崎・刈羽	神林 均 (半田小) 山本 睦子 (西山中)
糸 魚 川	田村 雅人 (大和川小)	妙 高	加藤 晃 (斐太北小)
長 岡 ・ 三 島	中林 郁郎 (栖吉小) 阿部 尚之 (大島中)	三 条	吉田 順一 (長沢小) 前澤 正人 (第一中)
燕 ・ 弥 彦	小畑一二美 (燕西小)	加 茂 ・ 南 蒲	山川 雅己 (葵中)
見 附	山本 哲哉 (名木野小)	小 千 谷	西山 正樹 (小千谷市立総合支援)
十日町・中魚	桜井 明 (川治小)	魚 沼	川池 雅樹 (広神西小)
南 魚 沼	野村 宏毅 (湯沢中)	新 発 田	神田 久子 (佐々木小)
北 蒲	佐藤 紹夫 (蓮野小)	胎 内	佐藤 新一 (きのと小)
村上・岩船	村山 啓介 (関川中)	五 泉	谷 均 (五泉北中)
阿 賀 野	佐藤 寿樹 (笹岡小)	東 蒲	武藤 常男 (津川小)
佐 渡	櫻井 清隆 (加茂小)	新潟・北区	生田 雅之 (葛塚東小)
新潟・東区	長沼 智之 (木戸小)	新潟・中央区	市橋 佳代 (真砂小)
新潟・江南区	徳田 正雄 (曾野木中)	新潟・秋葉区	藤井 正人 (矢代田小)
新潟・南区	内山 一敏 (月潟中)	新潟・西区	伊藤 正弘 (立仏小)
新潟・西蒲区	吉田富貴子 (鎧郷小)	視 覚 障 害	石畑 健一 (県立新潟盲)
聴 覚 障 害	小川 司 (県立長岡聾)	病 弱	内山 徹 (県立柏崎特別支援)
肢体不自由	奈良岡 裕 (県立上越特別支援)	知 的 障 害	関原 一成 (新大附属特別支援)

県特支研のホームページをご覧ください

県特支研の役員、事業、会報などの情報や特別支援学校へのリンクはこちらから

地区大会・研究部の情報や個人・団体の実践はこちらから

新規事業として特別支援学校のセンター的機能活用のための、アンケート調査の結果です。県内の小中学校がどのようなセンター的機能の活用を望んでいるかを調査した結果も載せてあります。



平成29年度 研究大会の紹介

全国特別支援教育研究連盟関連

詳しくは全特連HPをご覧ください。|<https://manavia.net/community/16>|

第56回全特連全国大会 山口大会

テーマ 「志をもち、生きる力を共に高めあう子供たちの育成」
 ～自立と社会参加をめざす特別支援教育の充実
 10月26日・27日 山口市民会館 山口市内小・中・特別支援学校
 第4分科会 高等学校における特別支援教育
 提案者 新潟市立明鏡高等学校 渡邊 佳奈子 教諭

第51回全特連関ブロ 東京大会

テーマ 「一人一人が輝く、特別支援教育の推進」
 8月9日 調布市グリーンホール 調布市文化会館たづくり 他
 第11分科会 交流及び共同学習
 提案者 県立上越特別支援学校 中川 恵美 教諭
 司会者 県立上越特別支援学校 山口 弥生 教諭

新潟県特別支援教育研究会関連

各研究部の研修会予定

- 知的障害部 8月7日(月)
会場：新潟市秋葉区文化会館
講演：「共に生きる」
～ダウン症の娘と共に生きて～
講師：書家 金澤翔子さんの母
書家 金澤 泰子 様
- 自閉症・情緒障害部 8月4日(金)
会場：長岡市中之島文化センター
講演：中学校の通常の学級で行う
合理的配慮とは？
講師：国立特別支援教育総合研究所
発達障害教育推進センター総括研究員
横山 貢一 様
- 言語・難聴部 7月31日(月)
会場：上越市市民プラザ
講演：難聴児の読み書きの理解と指導
講師：東京学芸大学
教授 澤 隆史 様
- 肢体不自由・病弱・身体虚弱部
8月4日(金)
会場：見附市立今町小学校
講演：病弱者における自尊感情の
発達特性について
講師：上越教育大学
准教授 八島 猛 様

県特支研だよりNo「115号」をお届けいたします。お忙しい中、多くの皆様から玉稿を賜りました。感謝申し上げます。本号が特別支援教育の一助となることを願っております。(事務局)

地区大会の予定

- 上越上越市北部大会 8月10日(木)
会場 リージョンプラザ上越
上越市教育プラザ 上越科学館
大会主題 「一人一人が輝き、
共生社会の実現を目指した
途切れない指導・支援の在り方」
講師 星槎大学大学院教育実践研究科
准教授 阿部 利彦 様
- 中越十日町中魚沼大会 11月24日(金)
会場 越後妻有文化ホール
中央公民館「段十ろう」
大会主題 「一人一人の生きる力を育てる
特別支援教育を目指して」
～社会的自立を目指す連携のあり方～
講師 新潟大学教育学部
教授 有川 宏幸 様
- 下越阿賀野市大会 11月27日(月)
会場 阿賀野市笹神体育館・ふれあい会館他
大会主題 「多様な学びの場で、共に学ぶ
特別支援教育の充実を目指して」
内容 6分科会で提案者を1名として十分な
協議時間を確保
- 佐渡大会 8月21日(月)
会場 両津地区(文化会館、公民館等)
大会主題 「自立と社会参加につながる
支援と連携」
講師 早稲田大学教育学部教育心理学専修
教授 本田 恵子 様